

学域ビジョン

学域	目指すべき未来	Value	Vision	Mission
応用生物学域	伝統と未来、連携、生命研究と社会	<p>導かれる新価値として以下のことが挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●持続可能社会の実現：「応用生物」で行われる多様な生命システムの研究から得られる成果、知見、および知財を、あらゆる学域で活用することにより、持続可能な社会の実現に貢献する。 ●異分野連携総合科学：一学部多分野に値する本学応用生物学域は、他大学農学系にない研究”異分野連携を伴う生命科学”を展開する学域となる。 ●専門性と分野横断：先端の施設と高度な知識と意欲にあふれ研究力に優れた人材を擁し、分野横断的研究を実践できる専門教育・先端研究体制の充実した活気ある学域となる。幅広い多様な科学・学問分野を持ち、変革著しい社会へ対応可能な学生を輩出する土壌となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝統と未来：養蚕学の流れを汲む「応用生物」研究と、その基盤を成す多様な先端生命科学研究を推進する体制を作る。 ●連携：分野の連携による研究力を高めつつ、学域を超えた教育・研究のリソースを共有・融合する連携を構築する。 ●生命研究と社会：地域産業との繋がりを強化しつつ、社会活動への知的情報の活用を促進することで、幅広い知と技の創造への挑戦を志向する組織を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●共同研究の加速：他分野、学域を超えた共同研究の加速に資することを目的とした学域ファシリティーの見える化と、小規模・大規模な頭脳交流・循環を目指した情報交換機会の増進を行う。 ●ファシリティーの拡充：多様な生命現象を取り扱う「応用生物」内外との連携を活用し、大型プロジェクト獲得に繋げる。 ●教育連携の加速：生物学教育に関しての学際的教育連携を加速する。これにより、将来的に医農工分野で活躍できる総合的プロデューサー型人材、総合的視野を持った人材育成教育に繋げる。 ●社会との関連性の強化：地域産業、地域社会との相互関係を構築するための交流事業や広報活動を積極的に推進し、研究成果の効果的な社会還元を実現させる。同時に、社会からのニーズを契機とする研究活動の活発化に繋げる。
物質・材料科学域	原子・分子のデザインから最先端の材料開発	<ul style="list-style-type: none"> ●「ええかげんなものは作らない」という京都ならではの価値観に基づき、物質・材料科学研究分野における飽くなき探究と社会課題の解決に貢献する。 ●基礎科学の深掘りと多彩な挑戦的コラボレーションを通じて、高度な工学センスを有する研究者・技術者を育成する。 ●基礎研究の社会実装に向けた課題解決と、技術ノウハウの基礎研究への定着を積極的に実施し、オリジナリティの高い最先端の教育研究を提供する。 ●領域教員の国際ネットワークを強化し、独自の基礎研究分野の社会還元を最大化するとともに、物質・材料科学分野の次代を担う国際性豊かな研究者・技術者を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●材料科学の基礎を重んじ、原子・分子レベルの理解から高精度な材料設計まで、多様にオリジナリティの高い教育研究を追求する。 ●基礎・応用・実践を通じた幅広い教育研究により、実直なものづくりに深く貢献できる高度な専門知識と経験を有する人材を育成する。 ●学域内での積極的な交流により、個々の基礎分野の相互理解を深め、知識と技術を活用・融合させることによって、他にはない新しい研究分野を創生する。 ●他学域および他大学や企業との積極的な交流を通じて、材料科学に対する見識を深めるとともに、新しい付加価値を創出する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●物質・材料科学分野の深掘りと領域横断的コラボレーションによって個々の教員が唯一無二の基礎研究分野を構築する。 ●学部および博士前期後期の教育カリキュラムを充実させ、高度な工学センスと創造的問題解決能力を有する次代を担う研究者・技術者を輩出する。 ●学域内ならびに学域間の挑戦的なコラボレーションを通じてオリジナリティの高い研究を行い、チャンネルの多様化を目指す。 ●独自研究分野の深掘りと異分野融合に基づく積極的な研究成果の情報発信により、個々の研究分野ならびに領域全体の国際的イニシアチブの確立を目指す。
設計工学域	伝統から革新へ、空想から現実へ、そして京都から世界へ	<ul style="list-style-type: none"> ●電子、機械、情報工学に係る専門知が集約され、かつ高度な分析・実験装置、加工装置および特殊設備が備えられている。 ●大学院への高い進学率、高い就職率及び卒業生に対する就職先からの高い評価。 ●設計工学域に関連する特色あるグローバル企業が近隣に多数存在し、共同研究、地域創成プログラム及びリカレント教育などを通じて深く結びついている。 ●学生と教員が適切な距離間でコミュニケーションを図ることができる人数規模。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今までに築き上げてきた「電子、機械、情報」工学を基礎として、未来へ向けて相互に連携・融合し、革新的工学分野を構築する。 ●超スマート社会や持続可能な社会の実現に資する科学的かつ社会的想像力（空想力）と、それを具現化する行動力を兼ね備えた人材を育成する。 ●京都が育んだ知と技を意識しつつ、日々変貌する世界の現状を鋭く洞察し、環境と調和する最先端の科学技術を熟知した国際性豊かな人材を育成する。 ●組織における構成員相互の信頼に基づき、独自の規範や仕組みを工夫しながら自発的に目的を達成できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各分野の専門知識を基礎として相互に連携及び融合を図り、機械・電子工学技術を情報・データサイエンスに基づくアイデアの活用を通じて知的統合システムへ昇華させ、その社会実装を目指す。 ●AI・データサイエンス教育、学部課程及び大学院専攻での連携・融合教育、及び超階層・異分野統合価値創造教育に基づき、専門領域を超えて活躍可能な「総合知」を有する人材の育成を目指す。 ●海外とのコミュニケーションを数多く経験し、グローバル企業で適切に知の交換が可能で人材の育成を目指す。 ●先端的研究及び新たな教育システムの下での自律的活動を通じ、多様化する社会の中でも揺るがない「個の確立」を目指す。

学域ビジョン

学域	目指すべき未来	Value	Vision	Mission
デザイン科学域	Future-Proof Design（未来への耐性があるデザイン）によって描き出されるPluriversal（多元的）な社会の創造	<p>〈京都思考〉を実践するための3つの思考</p> <ul style="list-style-type: none"> ●循環思考: 既存社会や既存物からなる文脈に対峙し、その先に開かれる未来を思考する。対象を個別または線形的ではなく、物質や価値の循環の中に位置づけて捉える。 ●歴史思考: 歴史に対する深い理解のもとで未来を考える。世界有数の歴史都市である京都を、歴史から未来を構想し実装する場とする。学系における歴史研究の充実を未来のデザインに生かす。 ●融合思考: 異なるもの間を絶えず横断し、融合を目指す。多様な文化資源が密に存在する京都には、共同研究の魅力的な対象や連携先が多く、多様な分野の研究室が近接する本学は、融合の場として最適である。 	<p>Pluriversal（多元的）な自然と社会の創造</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地球上の各地域が固有の歴史や文化の上に持続可能な社会を構築する方法を見出す。 ●すべての設計対象を歴史的な時間軸でとらえ、過去と現在を接続させて未来をつくる。 ●物質の循環と其中で生み出される価値を一つの生態系の働きとして理解し、自然物と人工物、物質と情報の共生関係を構築する。 	<p>Future Proof Design（未来への耐性があるデザイン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●歴史・理論の研究をデザインの実践に接続することで、既存社会や既存物の先に開かれる新しい都市・地域、循環型社会のシステム構築を行う。 ●地球規模の課題を解決する技術の開発とその社会実装にむけた価値創造が連携する学際的設計技術の構築と実践。 ●学系内外の教員グループによる実践的・統合的共同研究を通して新たな学術領域を創出するとともに、教育プログラムに展開することでデザインと建築の職能を刷新する人材を育てる。
繊維学域	持続可能な社会に向けた繊維の進展（SFDs：Sustainable Fiber Developments）	<ul style="list-style-type: none"> ●繊維研究の蓄積：本学に受け継がれている120年間の繊維研究を継承する。 ●独立専攻としての強み：研究に重きを置いた大学院教育により高度専門技術者・研究者を育成する。 ●学際的教育：繊維を学際的に教育するための多様な教員と科目を有する。 ●環境マインド：低環境負荷・リサイクルなど環境に優しいものづくり教育を通して学生の環境マインドを醸成する。 ●国際教育：授業の国際化や国際共同研究などを通してグローバル人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●繊維×環境×IT：新時代の繊維産業を担う人材を育成するために、環境とITなどの注目分野を繊維に絡めた教育カリキュラムを展開する。具体的には、環境への配慮を付加価値とした繊維製品の理解を進める授業、先進情報技術を利用した新しい繊維素材・製品の開発が学べる授業の提供などが考えられる。 ●繊維×医療：医療分野に求められる生体適合性・安全性などを満たす繊維素材・製品の開発を通して医工連携を図ることを目的とした教育を行う。 ●BBM×ファイプロ：繊維教育の川上から川下までをバイオベースマテリアル学専攻（BBM）と先端ファイプロ科学専攻（ファイプロ）が担いつつ、両専攻で共通科目を提供することで教育の相乗効果を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●SFDs：環境に優しい繊維素材・製品の開発を通して持続可能な社会を実現するSFDsを達成するための人材を育成する。 ●繊維教育の発信地：教育効果の高い特色ある授業科目を提供し国内外の繊維教育のハブとなる。 ●更なる進化：他学域・他大学と分野横断的に教育交流を図るとともに、新しい学問領域を柔軟に取り込みながら新時代を切り拓く学域へと進化させる。